

入院中の COVID-19 感染により ADL が低下した患者への鍼治療  
Acupuncture for a patient with declined ADL due to COVID-19 infection during hospitalization

三谷直哉<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>熊本赤十字病院 総合内科

Naoya Mitani<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>Japanese Red Cross Kumamoto Hospital Department of general internal medicine

【 緒言 】

COVID-19 感染は、入院患者の ADL 低下や入院期間の延長を引き起こす要因である。本症例は、入院中に COVID-19 に感染し、ADL が低下した患者に対して鍼治療を行い、効果が得られたため報告する。

【 症例 】

74 歳男性。1 か月前から続く倦怠感と、早朝発症した腰痛が徐々に増悪し体動困難となったため、X 年 3 月 4 日救急搬送され入院した。複雑性尿路感染症と診断され、抗菌薬加療を行った。入院後に摂食量が低下したため、X 年 3 月 15 日から補中益気湯を開始し一時的に摂食量が増加した。しかし、X 年 3 月 26 日に COVID-19 に感染し、再度摂食量が減少し、X 年 3 月 28 日から水様便になった。ニルマトレルビル/リトナビルで治療後も水様便が続き、食事や漢方薬も摂取できず、離床困難となり X 年 4 月 8 日に気陰両虚の診断に対して鍼治療を開始した。

【 治療・経過 】

鍼はセイリン（株）0.16 mm×40 mm 又は 0.12 mm×15 mm の毫鍼を使用し、健脾益気・補陰の治法で適宜選穴して治療を行った。リハビリでは 30m 歩行が可能になったが、水様便と摂食量は改善しなかった。X 年 4 月 18 日より腹部の陽気を高めるために三巡鍼法（中脘・下脘・水分・胃兪・天枢・大横・氣海・石門・関元）を開始し、3 回目の施術後に水様便が普通便になり、治療を継続することで空腹感を訴えるようになり摂食量が増加した。X 年 5 月 1 日に食事全量摂取可能、リハビリでは病棟を歩行で周回できるようになり、X 年 5 月 2 日に転院した。

【 考察 】

本症例では、気陰両虚に対する治療が奏効しなかった。その理由として、長期入院で摂食ができず消耗した状態に、COVID-19 感染による邪正相争によって気虚が進行し、脾腎陽虚となっていたことが考えられる。三巡鍼法により腹部の陽気を高めたことで、脾胃を立て直し食事摂取が可能となり、食事から気血を生成することで ADL が向上したと考えられる。

キーワード：入院、COVID-19、鍼治療、三巡鍼法